

小売業

1. 評価対象企業 (23 社)

【百貨店】(4 社)

J.フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、
高島屋、丸井グループ

【総合小売・コンビニエンスストア】(4 社)

ローソン、セブン & アイ・ホールディングス、
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、イオン

【ネット通販】(3 社)

アスクル、MonotaRO、ZOZO

【専門店】(12 社)

エービーシー・マート、マツキヨココカラ & カンパニー (新規)、
ウエルシアホールディングス、ツルハホールディングス、良品計画、
スギホールディングス、しまむら、ケーズホールディングス、
ヤマダホールディングス、ニトリホールディングス、
ファーストリテイリング、サンドラッグ

(証券コード協議会銘柄コード順)

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	27
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	5	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		18	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 41 名 (所属先 30 社) である。(氏名等は後掲)

3. 評価結果

(1) 総括 (「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲)

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、全般的に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価点は 70.9 点 (昨年度 69.2 点)、総合評価点の標準偏差は 10.2 点 (昨年度 9.7 点) であった。

- ② 業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4社）：79.5点（昨年度78.6点）、総合小売・コンビニエンスストア（4社）：74.1点（昨年度74.3点）、ネット通販（3社）：72.9点（昨年度68.5点）、専門店（12社）：66.5点（昨年度64.1点）となった。百貨店は4社のうち3社が80点を超えるなど高水準であった。ネット通販は3社全てが昨年度を上回り、特に、アスクル（+6.6点）、MonotaRO（+5.0点）の上昇が目立った。専門店は昨年度に続き上昇したが、なかでも、ツルハホールディングス（+7.8点）、スギホールディングス（+6.1点）、サンドラッグ（+4.5点）などのドラッグストアが大きく改善した。一方、各企業の得点率の差が大きいため、下位評価企業においては一層の改善努力を求めたい。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度72%）、**説明会等**が78%（昨年度77%）、**フェア・ディスクロージャー**が82%（昨年度81%）、**ESG関連**が65%（昨年度60%）、**自主的情報開示**が48%（昨年度45%）となり、5分野全てにおいて昨年度を上回った。
- ④ 評価項目について見ると、平均得点率80%以上の評価項目は5項目（昨年度同数）となり、そのうち85%以上は次の4項目（**説明会等**の中の2項目（(a) (b)）および**フェア・ディスクロージャー**の中の2項目（(c) (d)）（昨年度2項目）であった。
- (a) 「月次の売上状況は、十分に開示されていますか」（平均得点率85%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点/配点（以下省略））：10%以下2社・80%台3社・90%台16社・100%2社）
- (b) 「各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか」（平均得点率87%〔昨年度81%〕）（得点率：60%台1社・70%台4社・80%台4社・90%台14社）
- (c) 「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」（平均得点率89%〔昨年度84%〕）（得点率：60%台2社・70%台1社・80%台3社・90%台17社）
- (d) 「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか」（平均得点率90%〔昨年度84%〕）（得点率：30%台1社・70%台2社・80%台2社・90%台12社・100%6社）
- ⑤ 一方、平均得点率が50%台以下の評価項目は、3項目（**ESG関連**の中の1項目（下記⑥の(e)）および**自主的情報開示**の2項目（下記の(a) (b)））となった。なお、**自主的情報開示**の2項目の平均得点率は、昨年度に比べやや改善したものの40%台にとどまっている。
- (a) 「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率49%〔昨年度44%〕）（得点率：10%台2社・20%台6社・30%台2社・40%台1社・50%台3社・60%台1社・70%台5社・80%台2社・90%台1社）
- (b) 「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していますか」（平均得点率47%〔昨年度46%〕）（得点率：20%台4社・30%台4社・40%台3社・50%台8社・60%台1社・70%台3社）
- ⑥ **ESG関連**の5項目は、次のとおりとなり、いずれの項目も各企業の得点率の差が大きい状況が見られる。なお、(d)は、本年度の新規項目である。
- (a) 「企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率73%〔昨年度69%〕）（得点率：20%台1社・50%台1社・60%台4社・70%台10社・80%台5社・90%台2社）
- (b) 「ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか」（平均得点率68%〔昨年度64%〕）（得点率：20%台1社・50%台4社・60%台7社・70%台6社・80%台4社・90%台1社）
- (c) 「ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか」（平均得点率68%〔昨年度62%〕）（得点率：20%台1社・40%台1社・50%台4社・60%台6社・70%台5社・80%台4社・90%台2社）
- (d) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーンの環

境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか」(平均得点率 67%) (得点率: 30%台 1社・50%台 4社・60%台 7社・70%台 6社・80%台 3社・90%台 2社)

- (e) 「中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策(資本コスト・リターン)、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」(平均得点率 59% [昨年度 53%]) (得点率: 20%台 1社・30%台 1社・40%台 3社・50%台 7社・60%台 5社・70%台 5社・90%台 1社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 丸井グループ(ディスクロージャー優良企業 [3回連続5回目])

総合評価点 89.8点 [昨年度比+2.8点]

- ① 同社は、説明会等(得点率(以下省略) 89%)、フェア・ディスクロージャー(97%)、ESG関連(93%)が第1位、経営陣のIR姿勢等が同得点第1位(87%)、自主的情報開示が第3位(76%)となった。昨年度に比べ4分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」および「IRの基本スタンス」が共に最も高い評価となり、「IR部門の機能」も同得点第2位となった。これらに関連して、経営トップは、投資家・アナリストとの対話の重要性を理解し、そこで得た知見をIRに積極的に活かしているとの声や、IR部門を含め全社的に経営戦略の理解が浸透していることが窺えるとの声が寄せられた。また、社外取締役説明会などの開催を評価する声があった。なお、中長期的な業績見通しや具体的な戦略などの説明を評価しつつ、短期的な業績に対する、より一層の背景説明を望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「決算情報開示」が最も高い評価となり、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」の2項目も共に、85%以上の得点率となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」(第3位)も80%以上の得点率であった。これらに関連して、決算説明会や中期経営計画などの説明資料は充実していてわかりやすいとの声が寄せられ、投資家の声を受け、説明会では新しいテーマに沿った説明を積極的に行っているとの声もあった。また、リカーリングレベニューなど今後の収益性や強みがわかるKPIを継続して開示している点を評価する声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、4項目全てが最も高い評価となった。
- ⑤ ESG関連においては、5項目全てが最も高い評価(同得点第1位を含む。)となり、いずれも90%以上の得点率であった。これらに関連して、中長期の経営計画の継続的な説明や、資本政策、ESGの取組みなどの説明を評価する声が寄せられた。また、人的資本への投資等の説明が充実しているとの声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していること」が同得点第1位となり、「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は同得点第4位となった。充実していたイベントとして、IR DAYを挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 アスクル(総合評価点 84.8点 [昨年度比+6.6点]、昨年度第5位)

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等(87%)、自主的情報開示(80%)が同得点第1位、説明会等が同得点第2位(87%)、ESG関連が第3位(79%)、フェア・ディスクロージャーが第6位(92%)となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、特に、ESG関連および自主的情報開示の上昇が大きかった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IR部門の機能」が最も高い評価となり、「IRの基本スタンス」(第2位)および「経営陣のIR姿勢」(同得点第2位)も共に80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野で同得点第1位となった。これらに関連して、IR部門のフォローが迅速である、定期的にIRミーティングが開催されているとの声が寄せられた。また、経営陣はIR活動に意欲的であり、市場参加者の声に耳を傾ける姿勢が感じられるとの声や、経営トップが四半期ごとに説明会に参加していることを評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第2位となり、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」の2項目も共に高い評価となった。また、「決算情報開示」も90%以上の

得点率であった。これらに関連して、決算説明会資料等の情報開示は質・量共に十分との声や、決算説明会後に質疑応答のセッションを開催しており、有意義な質疑応答ができるとの声が寄せられた。また、ファクトシートのエクセルでの提供や、月次情報の内容を評価する声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、4項目が、いずれも85%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会資料や質疑応答集の開示が迅速であるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ESGに関する取組み」(4項目)が、いずれも80%以上の得点率となった。これらに関連して、初の統合報告書を発行し、株式市場との対話を深めようとする姿勢を評価する声があった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」は第6位となった。なお、中期経営計画の説得力を高めるような記載の工夫を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していること」が同得点第1位となり、「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は同得点第2位となった。充実していたイベントとして、新物流センター見学会を挙げる声が多かった。

第3位 J. フロント リテイリング (総合評価点 82.0 点 [昨年度比+0.2 点]、昨年度第2位)

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位(94%)、**ESG 関連**が第4位(79%)、**経営陣の IR 姿勢等**(81%)、**説明会等**(86%)が同得点第4位、**自主的情報開示**が同得点第6位(65%)となった。昨年度に比べ、**説明会等**および**自主的情報開示**において得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IRの基本スタンス」が同得点第3位となり、「経営陣の IR 姿勢」(第4位)も85%以上の得点率となった。「IR部門の機能」は同得点第8位であった。これらに関連して、経営トップをはじめ経営陣は半期ごとのミーティングに参加するなど、投資家の声を積極的に聴く姿勢が見られるとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「決算情報開示」が同得点第2位となったほか、「月次の売上状況が十分に開示されていること」(同得点第3位)が95%以上の得点率となった。そのほかの2項目も80%以上の得点率であった。これらに関連して、月次の開示には改善が見られるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「外国人投資家向け情報提供」および「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていること」が最も高い評価となった。そのほかの2項目についても、共に85%以上の得点率となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ESGに関する取組み」の4項目が、いずれも80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESG説明会を評価する声があった。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」も同得点第3位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していること」(同得点第5位)および「会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」(同得点第6位)が共に得点率を改善した。充実していたイベントとして、事業戦略説明会を挙げる声が多かった。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (小売業)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	丸井グループ	89.8	23.6	1	17.8	1	14.5	1	27.8	1	6.1	3	1
2	アスクル	84.8	23.6	1	17.3	2	13.8	6	23.7	3	6.4	1	5
3	J. フロントリテイリング	82.0	22.0	4	17.1	4	14.1	2	23.6	4	5.2	6	2
4	三越伊勢丹ホールディングス	80.5	22.2	3	16.6	7	13.2	9	22.1	7	6.4	1	4
5	フアーストリテイリング	80.3	21.5	6	15.9	13	14.1	2	23.8	2	5.0	8	6
6	セブン&アイ・ホールディングス	78.4	21.1	7	16.6	7	12.5	13	22.9	5	5.3	4	3
7	ローソン	77.2	20.6	9	16.2	10	12.9	11	22.2	6	5.3	4	7
8	しまむら	76.5	22.0	4	17.3	2	13.0	10	19.0	14	5.2	6	9
9	バンパシフィック・インターナショナルホールディングス	74.3	20.6	9	15.4	14	13.6	7	19.9	11	4.8	9	8
10	良品計画	73.0	19.0	16	14.7	18	14.0	4	20.7	8	4.6	10	10
11	ツルハホールディングス	72.8	20.1	11	16.9	6	12.7	12	20.5	9	2.6	15	16
12	ケーズホールディングス	69.7	19.5	13	16.1	12	11.7	17	20.0	10	2.4	16	12
13	ZOZO	69.3	20.8	8	14.9	16	13.9	5	17.4	20	2.3	18	11
14	スギホールディングス	68.3	19.6	12	16.4	9	11.6	18	18.8	15	1.9	20	17
15	ウエルシアホールディングス	68.2	19.5	13	16.2	10	11.6	18	18.1	17	2.8	14	14
16	イオン	66.2	16.5	20	13.0	22	13.4	8	19.8	12	3.5	13	15
17	サンドラッグ	65.8	19.5	13	15.1	15	11.1	20	18.4	16	1.7	22	18
18	高島屋	65.4	18.2	19	14.8	17	11.8	16	16.2	21	4.4	11	13
19	MonotaRO	64.6	18.4	18	17.1	4	12.2	14	14.5	22	2.4	16	20
20	マツキヨココカラ&カンパニー	63.6	18.7	17	13.7	19	11.9	15	17.6	19	1.7	22	
21	ヤマダホールディングス	60.3	16.1	21	10.8	23	10.0	21	19.1	13	4.3	12	19
22	ニトリホールディングス	55.0	14.2	22	13.2	21	8.0	22	17.8	18	1.8	21	21
23	エービーシー・マート	44.0	13.7	23	13.6	20	7.2	23	7.3	23	2.2	19	22
	評価対象企業評価平均点	70.89	19.61		15.52		12.30		19.62		3.84		

2023年度評価項目および配点(小売業)

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (27点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップがIR活動に理解を示し、注力していますか。また、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9
(2)IR部門の機能	
・IR部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、IR部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができますか。	9
(3)IRの基本スタンス	
・当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	9
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (20点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示（以下①②については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する）	
①実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていますか。また、セグメント分類をはじめ会計方針等の変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	8
②月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	2
(3)決算情報開示	
・各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー (15点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	4
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
①決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5
②リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか。	2
(3)外国人投資家向け情報提供	
・英文による情報提供は充実していますか。（0～4点の整数で評価）	4
4. ESGに関連する情報の開示 (30点)	配点
(1)ESGに関する取組み	
①企業価値の向上につながるようなマテリアリティの設定が行われ、開示されていますか。	5
②ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。	5
③ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか。	5
④ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーンの環境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	3
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示	
・中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	12
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (8点)	配点
①会社主催の決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していたIRイベント等名をコメント欄に記入して下さい】	4
②投資家やアナリストのニーズを踏まえ、IR部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していますか。	4

小売業専門部会委員

部会長	小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
部会長代理	高橋 俊雄	みずほ証券
	風早 隆弘	クレディ・スイス証券
	金森 都	SMBC 日興証券
	仲西 恭子	アセットマネジメント One
	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
	村田 大郎	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（41名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	高橋 俊雄	みずほ証券
朝枝 英也	みずほ証券	田村 真一	極東証券経済研究所
荒木 正人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	津田 和徳	大和証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	鶴尾 充伸	シイクグループ証券
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	寺島 正	大和アセットマネジメント
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	陶 志遠	アライアンス・パートナーズ
井上 昂洋	シイクグループ証券	永田 和子	QUICK
江上 誠	三井住友トラスト・アセットマネジメント	仲西 恭子	アセットマネジメント One
大場 剛平	野村アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
風早 隆弘	クレディ・スイス証券	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
金森 都	SMBC 日興証券	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
金森 淳一	岡三証券	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
川原 潤	大和証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
菅 あずさ	水戸証券	堀井 章	ニッセイ アセットマネジメント
岸本 晃知	みずほ証券	松尾 賢弥	SMBC 日興証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	村田 大郎	JP モルガン証券
小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	守屋 のぞみ	UBS 証券
篠崎 真紀	モルガン・スタンレー MUFJ 証券	山岡 久紘	野村証券
角 英樹	東海東京調査センター	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
高田 訓弘	三菱 UFJ アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。